

令和4年度 経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業  
 成果報告書

実施機関名（三重県教育委員会）

1. 問題意識・提案背景

- (1) 本県は、特別支援教育の推進を重要な施策のひとつとして位置づけ、「三重県特別支援教育推進基本計画」（令和2年3月改定）のもと取組を進めている。
- (2) 本県で通級による指導を受けている小中高等学校に在籍する児童生徒数は、年々増加の傾向にある（表1）。通級による指導を受けている児童生徒の障害種は、小学校では、言語障害とLD・ADHDとに大きく二分しており、中学校では、およそ9割が、LD・ADHDである。

通級による指導を担当する教員は、約4割が指導経験2年未満であることから、各地域、各学校で専門性の高い支援を提供するためには、担当する教員の人材育成が大きな課題である。

【表1】通級による指導を受けている児童生徒数 令和4年5月1日現在

	平成30年	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	800	878	1,003	1,006	988
中学校	79	87	181	178	195
高等学校	—	13	16	26	25
計	879	978	1,200	1,210	1,208

- (3) これまで本県では、発達障害支援に係る支援体制の充実のため、国事業に応募し、以下の取組を進めてきた。

委託年度	事業名	内容
平成28年度 平成29年度	「通級による指導担当教員等専門性充実事業」	通級による指導担当教員や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター（以下、「特別支援学校コーディネーター」という。）の発達障害支援の専門性の向上と指導者の育成を図るために以下の研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員等を対象とした発達障害のある児童生徒の特性の理解や具体的な指導・支援の方法、教材・教具の活用等に係る内容を設定した研修</li> <li>・県立子供心身発達医療センターに併設する県立かがやき特別支援学校が主催する研修</li> </ul>
平成30年度 令和元年度	「発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級担任と通級による指導担当教員が連携して、通常の学級において発達障害の可能性のある児童生徒が学習上つまづくことなく学習内容を理解できるよう、通級による指導における指導や支援のノウハウの活用について研究</li> </ul>
令和元年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立伊勢まなび高等学校において通級による指導を開始し、高等学校における通級による指導のあり方についての研究及び事例の蓄積</li> </ul>
令和2年度	「経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の発達障害支援に係る支援体制の研究を進めるため、教員としての資質の向上に関する指標に対応した研修を実施</li> <li>・各地域における指導的立場の教員（以下、「発達障害支援アドバイザー」という。）の養成講座を開設（令和2年度及び令和3年度）</li> <li>・三重大学と連携し、教員養成課程における現行講座「特別支援教育入門」について、地域や学校現</li> </ul>

		場で求められているニーズに対応した教育内容とするために、講座の教授法について検討
令和3年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員等研修講座において研修毎に指標をふまえたアンケートを実施</li> <li>・三重大学と連携し教員養成課程における現行講座「特別支援教育入門」について、発達障害支援アドバイザーによる出前授業等を行うなど、発達障害に関する講座の具体的な教授法について検討</li> </ul>

## 2. 目的・目標

- (1) 通常の学級や通級による指導の経験の浅い教員の発達障害支援に係る専門性の向上のため、教員としての資質の向上に関する指標に対応した研修等を実施するとともに、県内の発達障害支援に係る支援体制の充実を図る。
- (2) 通常の学級や通級による指導の経験の浅い教員が日々の指導・支援等に関して一人で悩むことのないよう相談先の整理や指導的立場の教員による指導・助言等サポート体制の充実を図る。
- (3) 大学の教員養成課程における現行講座「特別支援教育入門」（1年次）および「教職実践演習」（4年次）について地域や学校現場で求められているニーズに対応した教育内容とするため、系統的に発達障害に関する講座の教授法について研究を行う。

## 3. 実施体制

### (1) 運営協議会

#### ア. 参加者

所属・職名
三重大学・教育学部・特別支援教育講座・教授
三重大学・教育学部・特別支援教育講座・教授
県立子供心身発達医療センター・センター長
発達障害支援員スーパーバイザー※1
三重県立かがやき特別支援学校・校長
三重県立かがやき特別支援学校コーディネーター・教諭
四日市市立中部西小学校 通級による指導担当教員・教諭
三重県子供・福祉部・障害福祉課・主査
三重県子供・福祉部・障害福祉課・主事
三重県教育委員会事務局・研修推進課・班長
三重県教育委員会事務局・高校教育課・指導主事
三重県教育委員会事務局・特別支援教育課・指導主事
三重県教育委員会事務局・特別支援教育課・指導主事

※1「発達障害支援員スーパーバイザー」は、臨床発達心理士等の資格を持つ発達障害支援コーディネーターである「発達障害支援員」（主に、高等学校における巡回相談や特別支援教育の推進を行っている）に対して指導・助言を行う。

## イ. 開催実績

回	参加者	実施日	研修形態	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重大学教育学部教授</li> <li>・県立子供心身発達医療センター医師</li> <li>・発達障害支援員スーパーバイザー</li> <li>・県立かがやき特別支援学校長</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	5月24日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内発達障害支援体制について</li> <li>・経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業について</li> <li>・三重大学現行講座「特別支援教育入門」および講座「教職実践演習」の教授法の検討について</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員</li> <li>・県子供・福祉部障害福祉課担当者</li> </ul>	11月16日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員等研修講座の進捗報告</li> <li>・三重大学現行講座「特別支援教育入門」および講座「教職実践演習」の授業シラバス案について</li> <li>・発達障害支援アドバイザーの活用について</li> <li>・高等学校における通級による指導について</li> </ul>
3		3月10日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の成果報告</li> </ul>

### (2) 連携した大学

国立大学法人三重大学

### (3) 専門家の活用

#### ア. 専門性（特別支援教育など）に関する経歴・所有資格等

##### ・三重大学教育学部教授

日本特殊教育学会 日本LD学会 日本児童青年精神医学会 日本犯罪心理学会 日本教育心理学会 各会員 等

##### ・皇學館大学教育学部准教授

臨床心理士、学校心理士、上級教育カウンセラー、ガイダンスカウンセラー 等

##### ・発達障害支援員スーパーバイザー

元鳥取少年鑑別所長、元宮川医療少年院長（平成21年3月退官）、三重県教育委員会発達障害支援員スーパーバイザー、四日市市教育委員会教育支援課スーパーバイザー、宇部フロンティア大学臨床教授、日本LD学会代議員・編集委員 特別支援教育士スーパーバイザー（学会連携資格）

#### イ. 配置状況、活動内容

- ・大学教授は、発達障害支援アドバイザー養成のための研修に係る講義等を行う。各地域における困難なケースに対応するための支援の方法等について指導・助言を行う。
- ・発達障害支援員スーパーバイザーは、発達障害支援員や特別支援学校コーディネーター等に対して、困難なケースに対応できる支援の方法等についての指導・助言を行う。
- ・発達障害支援員スーパーバイザーは、運営協議会に参加し、教員養成課程における教授法や発達障害支援に係るサポート体制について指導・助言を行う。

#### 4. 取組概要・成果（取組全体の概要図は別途参照）

発達障害の可能性のある児童生徒への指導・支援に係る教員の専門性の向上を図るため、教員としての資質の向上に関する指標（※1）に対応した研修等を実施した。（県教育委員会が作成している教員としての資質の向上に関する指標を当課が発達障害支援の観点から再編集した。）

##### ※1 教員としての資質向上に関する指標等

資質能力に係る項目	通級による指導経験年数	段階	発達障害支援を担うにあたり必要とされる専門性
教職着任前	0年	大学の教員養成課程の学生	-
教職着任時		-	発達障害支援を含む特別な支援を必要とする児童生徒への個別の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援の必要性と、児童生徒が互いを尊重し、共に学ぶことの大切さを理解している。
第1ステージ	0年～2年	経験の浅い教員	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態の把握に基づく指導・支援を行うことができる。また、他の教職員と連携・協力しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第2ステージ	3年～5年	中堅教員	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態を把握し、指導内容や指導方法を工夫して適切な指導・支援を行うことができる。また、教職員間の共通理解を図りながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第3ステージ	6年～10年		発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、教職員間の共通理解を深めながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第4ステージ	10年以上	経験豊富な教員	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、他の教職員に指導・助言しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を組織的に実践することができる。

#### ○指標をふまえた研修内容のアンケート調査

- ・指標に対応した研修とするため、通級による指導担当教員等研修講座（発達障害専門研修、発達障害エリア研修、発達障害支援研修）の終了後に、受講者にとって指標に応じた研修内容となっていたかを把握するアンケートを実施した。2件法（該当する・該当しない）で実施した結果、概ね指標に合った研修内容であったという回答を得た。

##### 【各研修講座におけるアンケート結果】

講座名	講座	参加人数	指標に応じた研修内容となっていたか（%）
発達障害専門研修	第1・2回	85	93

	第3・4回	91	88
発達障害支援研修	第1回	120	91
	第2回	158	85
発達障害実践研修	第1回～第12回	50	92
発達障害エリア研修	北勢地域	27	89
	中勢地域	30	90
	伊賀地域	17	100
	松阪・南勢・志摩地域	19	79
	東紀州地域	11	100

【備考】

- ・児童生徒の特性や実態の把握と、実態把握に基づいた指導内容や支援方法の工夫などについて、満たされている研修であったかを評価することができた。
- ・指標に応じた研修内容の数値の低い発達障害エリア研修（松阪・南勢・志摩地域）は、参加者数が少ないため、無記入等であったなど全体の数値に影響していると考えられる。

(1) 教員の専門性向上のための研修等の機会の充実

ア. 発達障害専門研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員等 (第1ステージ)	8月3日	集合研修 オンライン	演題：「通常の学級担任のための支援のシナリオ～CLM 小学校1年生用～」 講師：NPO法人ライフステージサポートみえ 副理事長 中村 みゆき
2		8月3日	集合研修 オンライン	演題：「通級による指導の実践について」 講師：桑名市立在良小学校 教諭 渡辺 雅子
3	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員等 (第2ステージ)	11月11日	集合研修	演題：「発達障害のある子供への学習「動作」における指導法1」 講師：神奈川県立保健福祉大学 教授 笹田 哲
4		11月11日	集合研修	演題：「発達障害のある子供への学習「動作」における指導法2」 講師：神奈川県立保健福祉大学 教授 笹田 哲

○主な成果

- ・教員としての資質向上に関する指標をもとに、教員の発達障害支援の経験やニーズに対応した研修を実施することで、専門性の向上につなげることができた。特に経験の浅い教員（第1・2ステージ）にとっては、小学校での通級による指導の実際や発達障害のある児童生徒の身体の動かし方など具体的な指導方法を学ぶことができた。
- ・オンラインによる研修と集合研修を同時に実施することで、授業や研修会場への移動等で受講が困難な教員に対して、研修機会を確保することができた。

イ. 発達障害実践研修（12講座）

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> <li>・高等学校の教員等（第3ステージ）</li> </ul>	7月 7日 7月 25日 8月 4日 8月 25日 9月 9日 10月 6日 11月 4日 12月 2日 12月27日 1月 27日 2月 15日 12回目はケース検討のためグループによって異なる。	集合研修 オンライン	講義： ・コミュニケーション障害群 ・コミュニケーション障害群 ・発達性ディスレクシア ・STRAW-R研修 理論編および実践編かつ評価編 ・発達障害と不登校について－発達支援と精神医学的な視点から－ ・不安障害および強迫性障害 ・反抗挑発症・間欠爆発症 ・保護者からの教育相談のあり方について 講師：三重大学教育学部 教授 松浦 直己  講義：「言語通級指導教室（ことばの教室）吃音指導について、構音指導について」 講師：教諭 生川 きみ江 教諭 三田 沙知子  講義：「教育支援センターの取り組みについて」 講師：津市教育支援センター ほほえみ教室 西田 佳弘 演題：「発達性ディスレクシアの実践事例」 講師：津市立育成小学校 教諭 辻 大輔
○主な成果 ・教員としての資質向上に関する指標をもとに、教員の発達障害支援の経験やニーズに対応した研修を実施することで、専門性の向上につなげることができた。特に第3ステージである中堅の教員にとっては、言語障害やコミュニケーション症など発達障害についての医学的な知識や関係機関での取組を研修することができた。また、大学教授を交えた事例検討などを研修することで、その後の指導に役立てることができた。 ・オンラインによる研修と集合研修を同時に実施し、授業や研修会場への移動等で受講が困難な教員に対して、研修機会を確保することができた。				

ウ. 発達障害エリア研修

エリア	対象	実施回数	実施日	研修形態	内容
北勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	第1回	7月25日～ 8月12日	オンデマンド	演題：「読み書きの困り・学習につまずきのある子供の理解と支援～ICTを使った学び方～」 講師：学びプラネット合同会社 代表 平林 ルミ
		第2回	8月23日	集合研修	
中勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の教員等</li> </ul>	第1回	8月8日	集合研修	演題：「城山特別支援学校での取り組み～視線入力と

	(第1～第3ステージ)	第2回			共同注意～ 講師：県立城山特別支援学校 教諭 山本 裕史
					演題：「発達障害のある子供への支援～認知を支える目の動き・手の動き～」 講師：大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所 奥村 智人 神奈川県立保健福祉大学 教授 笹田 哲
伊賀		第1回	8月5日	集合研修	演題：「つながりの中でインクルーシブ教育を目指す～三段階の指導モデルによって～」 講師：特別支援教育スーパーバイザー 公認心理士 加藤 裕子
		第2回	10月28日		情報交換会：通級による指導の指導・支援状況および実践紹介等 講師：県立特別支援学校伊賀つばさ学園 発達障害支援アドバイザー 教諭 突山 祐
松阪・南勢・志摩		第1回	12月17日	オンライン	演題：「発達障害のある子供たちへの支援～ことばの教室と体のはなし～」 講師：津市立修成小学校 教諭 生川 きみ江 県立度会特別支援学校 実習助手 朝熊 奈緒子
		第2回	12月9日	集合研修	演題：「発達障害のある子供たちへの支援～巡回相談から思うこと～」 講師：県立特別支援学校玉城わかば学園 教諭 谷崎 正純
東紀州		第1回	7月26日	集合研修	演題：「松阪市における通級指導教室の実践例や支援体制づくり等について」 講師：松阪市立第一小学校 教諭 潮田 千尋 教諭 尼子 良佳 松阪市立嬉野中学校 教諭 藪 裕子
		第2回	12月5日		情報交換会：東紀州地域の通級指導教室の現状と課題 講師：県立特別支援学校玉城わかば学園 教諭 谷崎 正純

<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員と特別支援学校コーディネーターが、指導方法や関係機関等の情報を共有する場を設けたことで、特別支援学校コーディネーターが過去の対応したことのある事例などをふまえて話し、各エリア内で連携が深まるなど、特別支援学校のセンター的機能の活用に繋がったと考えられる場面があった。</li> <li>・通級による指導の経験の豊かな教員や特別支援学校コーディネーターが、経験の浅い教員に対して具体的な指導方法や教材等を具体的にアドバイスすることで、専門性の向上につなげることができた。</li> <li>・実態把握の方法や事例検討などテーマに沿った情報交換や相談の時間を設定したことで、経験の浅い通級による指導担当教員が指導の方法等について相談することができ、課題の解決につなげることができた。</li> </ul>
--

エ. 発達障害支援研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	・通級による指導担当教員	8月9日	オンライン	演題：「実践報告会」 講師：県立かがやき特別支援学校あすなる分校教員
2	・特別支援学特別支援教育校コーディネーター ・小中高等学校の教員等 (第1～第3ステージ)	8月19日		講演：「医療と教育の連携～教育に求めること～」 講師：県立子ども心身発達医療センター センター長 中西 大介

<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と連携した発達障害支援を行うかがやき特別支援学校あすなる分校の実践や、県立子供心身発達医療センターのセンター長からの医療との連携に焦点を当てた講演を通して、児童生徒の実態をふまえた多様な発達障害の状況についての支援を知る機会をもつことができ、専門性の向上につなげることができた。</li> </ul>
---

オ. 発達障害支援実地研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 4	・特別支援学校 コーディネーター (第2・第3ステージ)	①9月20日	集合研修 オンライン	・発達障害のある児童生徒の実態把握（授業参観） ・発達障害の特性に応じた指導・支援（授業参観） ・県立子供心身発達医療センターのケースカンファレンス（見学） ・県立かがやき特別支援学校の医療と連携した発達障害支援の取組（講義・事例検討）
		9月21日		
		9月22日		
		9月26日		
		9月28日		
		②10月17日		
		10月18日		
		10月19日		
		10月20日		
		10月21日		
		③10月31日		
		11月1日		
		11月2日		
		11月7日		
		11月9日		
		④12月5日		
		12月6日		
		12月7日		
		12月8日		
		12月9日		
⑤1月19日				
1月23日				
1月24日				
1月25日				
1月26日				



○主な成果

- ・特別支援学校コーディネーターが、かがやき特別支援学校あすなろ分校の取組を実際に体験する研修を実施することで、発達障害支援の専門性の向上につなげることができた。
- ・特別支援学校コーディネーターが、小中学校から要請があった発達障害支援に係る困難なケースについては、かがやき特別支援学校あすなろ分校に相談して支援するなど連携を深めることができた。
- ・県立子供心身発達医療センターが開催するケースカンファレンスの様子を見学することで、治療方針をふまえた指示やその指示を具体的な指導をどのようにつなげるなど、医療と教育との具体的な連携方法等について知ることができた。
- ・5日間の日程のうち、オリエンテーションなど一部をオンラインで実施することで、参加者の移動の負担を軽減したうえで、有意義な研修を実施することができた。

カ. 特別支援学級等新担当教員研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級を新たに担当する教員</li> <li>・通級による指導を新たに担当する教員(第1ステージ)</li> </ul>	5月12日 5月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン</li> <li>①～⑧の中から1講座選択</li> <li>・ネットDE研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 知的障害 講師：三重県立特別支援学校西日野にじ学園 教諭 石井 和加子</li> <li>② 自閉症 講師：三重県立くわな特別支援学校 教諭 永井 優希</li> <li>③ 情緒障害 講師：津市立豊津小学校 教頭 平松 有吾</li> <li>④ 肢体不自由 講師：三重県立松阪あゆみ特別支援学校 教頭 中野 正尚</li> <li>⑤ 病弱・虚弱 講師：三重県立かがやき特別支援学校 教諭 辻野 弘子</li> <li>⑥ 視覚障害 講師：三重県立盲学校 教諭 東 浩美</li> <li>⑦ 言語障害 講師：津市立育生小学校 教諭 辻 大輔</li> <li>⑧ 聴覚障害 講師：三重県立龔学校 教諭 南部 恵子</li> <li>・ネットDE研修 「三重県の特別支援教育について」 「特別支援学級等担当の心構え」</li> </ul>
2		4月20日 ～ 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットDE研修</li> <li>①～⑱の中から2番組選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「NITS校内研修シリーズNo17 特別支援教育の実際」</li> <li>②「NITS校内研修シリーズNo20 特別支援教育総論」</li> <li>③「NITS校内研修シリーズ</li> </ul>

				<p>No78 病弱教育におけるICT活用」</p> <p>④「ICTを活用した支援」</p> <p>⑤「医療的ケアを必要とする子供と家族が地域で暮らすこと」</p> <p>⑥「気になる子供への指導と保護者支援の実際」</p> <p>⑦「特別支援教育ー通常の学級における教科指導ー」</p> <p>⑧「自閉症の理解を求めてー息子とともに生きてー」</p> <p>⑨「手話入門ーコミュニケーションをとるためにー」</p> <p>⑩「発達障害のある子のための教育支援モデル」</p> <p>⑪「クラスの中にいる『気になる子供』をどう支援するか」</p> <p>⑫「特別支援教育における『個別の指導計画』」</p> <p>⑬「通常学級で無理なくできるユニバーサルデザイン～あったかクラスづくり～」</p> <p>⑭「学級づくりに活かすソーシャルスキルトレーニング」</p> <p>⑮「発達障害のある子の健康と身体づくり」</p> <p>⑯「発達障害のある子を支えるー認知の歪みから起こる感情・行動を変える」</p> <p>⑰「発達障害のある子供への学習『動作』における指導法」</p>
3		<p>①8月8日</p> <p>②8月2日</p> <p>③8月4日</p> <p>④7月26日</p> <p>⑤7月26日</p>	<p>①②③オンライン</p> <p>④⑤集合研修</p> <p>①～⑤の中から1講座選択</p>	<p>①「通常の学級における特別な支援ー発達上の困難と指導・支援の方法ー」</p> <p>講師：三重大学教育学部 教授 松浦 直己</p> <p>②「困り感のある子への支援ー学習支援とICTの利活用ー」</p> <p>講師：兵庫教育大学 准教授 小川 修史</p> <p>③「困り感のある子への支援ー見る機能と身体の動きー」</p> <p>講師：鈴鹿医療科学大学保健衛生学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻 助教 多田 智美</p> <p>④特別支援教育基礎講座1 「初めての特別支援教育ー実践につながる知識とスキルー」</p> <p>講師：県立特別支援学校玉城わかば学園</p>

			校長 越知 ひとみ ⑤特別支援教育基礎講座2 「適切な支援を考える－事例 検討の理論と実践－」 講師：津市立豊津小学校 教頭 平松 有吾
4		7月1日 ～ 1月27日	令和4年度 県立特別支援学 校が行う公開講座
<b>【成果】</b> ・特別支援学級や通級による指導を新たに担当する教員が、各自で必要な講座を選択し受講することで、障害の特性や適切な支援の方法および特別支援学級経営等の具体的事例等を幅広く学び、専門性の向上につなげることができた。			

キ. 発達障害支援アドバイザー養成研修（第2期前期分 15 講座と情報交換会）

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導担当教員</li> <li>・特別支援学校の教員</li> <li>・市町教育委員会指導主事（第4ステージ）</li> </ul>	6月6日 6月23日 7月11日 7月28日 8月1日 8月8日 8月22日 8月26日 8月29日 9月29日 10月19日 12月26日 1月10日 1月25日 2月3日	集合研修 オンライン	講義： ・知的障害 ・ボーダーラインと検査結果の解釈 ・ADHD ・自閉スペクトラム症 ・発達性ディスレキシア① ・発達性ディスレキシア② ・強度行動障害 ・反抗挑発症、間欠爆発症 ・愛着障害 ・神経学的基礎理解① ・神経学的基礎理解② ・発達障害児への薬物治療 ・知能とは ・ワーキングメモリーとは ・てんかん
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期の通級による指導担当教員</li> <li>・第1期の特別支援学校の教員</li> <li>・第1期の市町教育委員会指導主事（第4ステージ）</li> </ul>	8月24日	集合研修	・第1期発達障害支援アドバイザー情報交換会 講師：三重大学教育学部教授 松浦 直己
<b>○主な成果</b> ・令和2年度・令和3年度に、発達障害支援に係る高度な指導・支援の専門性を学ぶことで、各地域における発達障害支援を中心的に担い、指導的立場となる発達障害支援アドバイザー15名を養成する研修を行った。令和4年度から令和5年度は、第2期生を養成している。 ・この研修では、発達障害に係る障害特性やその背景などDSM-5（精神疾患の診断・統計マニュアル第5版）を中心に講義を受け、発達障害の理解と対応について学ぶことができた。 ・第1期の発達障害支援アドバイザーの情報交換会を開催し、ケース検討会および活動報告を行うことや、最新の発達障害に関する情報を得ることができ、今後の活動に生かすことができた。				

(2) 経験の浅い教員への指導・助言などのサポート体制の構築

ア. 高等学校における通級による指導等専門性充実検討会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害支援員</li> <li>・発達障害支援員スーパーバイザー</li> <li>・皇學館大学教授</li> <li>・高等学校特別支援教育コーディネーター</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> <li>・通級による指導担当教員</li> </ul>	7月6日	県立みえ夢学園高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における通級による指導について</li> <li>・みえ夢学園高等学校での通級による指導について</li> </ul>
2		10月28日	県立伊勢まなび高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校視察報告</li> <li>・伊勢まなび高等学校における通級による指導について（授業参観と事後協議）</li> </ul>
3		1月17日	県立みえ夢学園高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校視察報告</li> <li>・みえ夢学園高等学校における通級による指導について（授業参観と事後協議）</li> </ul>
4		2月21日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の高等学校における通級による指導について</li> </ul>
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢まなび高等学校、みえ夢学園高等学校の授業を参観し、自立活動の指導の取組を共有することで、両校が今後の指導に生かすことができた。</li> <li>・県立特別支援学校玉城わかば学園のセンター的機能による伊勢まなび高等学校に対する支援や、県立稲葉特別支援学校のセンター的機能によるみえ夢学園高等学校の支援に係る取組を共有するとともに、発達障害支援員スーパーバイザー等から専門的な指導・助言を得ることで、生徒への支援の方法や特別支援学校の高等学校への支援の進め方等について考えを深めることができた。</li> <li>・岐阜県や宮崎県への先進校視察に関して報告することで、他県での通級による指導の現状や課題など両校および令和5年度に通級による指導を実施する予定の北星高等学校と共有することができた。</li> <li>・北星高等学校は、通級による指導を始めるにあたっての準備や悩みなどを共有することで、参加者から助言を得ることができた。</li> </ul>				

イ. 高等学校と特別支援学校との連携に係る発達障害支援情報交換会

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害支援員スーパーバイザー</li> <li>・発達障害支援員</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	4月12日	県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における通級による指導について</li> <li>・県内高等学校の発達障害支援について</li> </ul>
2		5月13日	県吉田山会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度末の中学校から高等学校への支援情報の引継ぎ実績について</li> </ul>
3		8月17日	栄町庁舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における通級による指導リーフレットの検討</li> <li>・県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換</li> </ul>
4		10月3日	県勤労者総合福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校コーディネーターと高等学校との連携について</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換</li> </ul>
5		12月5日	県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回高等学校・特別支援学校コーディネーター会議後のアンケート結果から見えてきた内容について協議</li> <li>県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換</li> </ul>
6		1月20日	県総合文化センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校における通級による指導について</li> <li>発達障害支援員と特別支援学校特別支援教育コーディネーターが連携した高等学校支援について</li> </ul>
7		3月20日	県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の取組について</li> </ul>
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害支援員と特別支援学校コーディネーターが、県内の高等学校における発達障害支援の現状や支援のニーズ等について情報を共有するとともに、特別支援学校コーディネーターが高等学校への支援として実施できる内容について整理することができた。</li> <li>高等学校における通級による指導に直接関わるのが少ない発達障害支援員が、通級による指導の現状と課題を共有することで、高等学校に巡回指導する際の情報を共有し、発達障害支援員が高等学校教員への指導の参考として役立った。</li> </ul>				

ウ. 高等学校特別支援教育コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害支援員スーパーバイザー</li> <li>発達障害支援員</li> <li>高等学校特別支援教育コーディネーター</li> </ul>	5月13日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校における特別支援教育の推進について</li> <li>高等学校における通級による指導について</li> <li>特別支援教育コーディネーターとの連携について</li> <li>情報交換会（地域別） テーマ：外部専門家との調整や担任教員（教科担当）との連携</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	10月3日	オンライン（特別支援学校コーディネーター会議合同開催）	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて</li> <li>特別支援学校のセンター的機能を活用した高等学校における支援</li> <li>講演：「高等学校における通級による指導と授業でのユニバーサルデザイン化の取組」 岐阜県立不破高等学校 教諭 田中 智樹</li> <li>情報交換会（地域別）</li> </ul>

				テーマ：授業でのユニバーサルデザイン化の取組
3		1月20日	集合 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて</li> <li>・高等学校における通級による指導について</li> <li>・特別支援教育の推進に係る年度替わりの対応について</li> <li>・講演：「高等学校の特別支援相談を振り返って～発達障害支援員としての9年間～」</li> </ul> 発達障害支援員 大友 正明
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における特別支援教育を推進するうえで、通常の学級における発達障害のある可能性のある生徒を支援する手立てとして、視覚支援や授業の見通しなど授業のユニバーサルデザイン化の取組を年間テーマとして取り上げることで、各学校での実践事例を共有することができた。</li> <li>・講演として他県での高等学校における通級による指導の実践を紹介したことで、通級による指導だけでなく、校内支援体制を整えることが通級による指導をさらに効果的に取り組むことにつながるなど、本県での通級による指導の取組の参考とすることができた。</li> </ul>				

エ. 特別支援学校コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害支援員スーパーバイザー</li> <li>・発達障害支援員</li> <li>・高等学校特別支援教育コーディネーター</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	5月20日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校のセンター的機能による地域支援の実施状況について</li> <li>・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について</li> <li>・高等学校における通級による指導について</li> <li>・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎに係る特別支援学校のセンター的機能の活用について</li> </ul>
2		10月3日	集合 (特別支援学校コーディネーター会議合同開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて</li> <li>・特別支援学校のセンター的機能を活用した高等学校における支援</li> <li>・講演：「高等学校における通級による指導と授業でのユニバーサルデザイン化の取組」</li> </ul> 岐阜県立不破高等学校 教諭 田中 智樹 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換会（地域別）</li> </ul> テーマ：授業でのユニバーサルデザイン化の取組

3		2月10日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について</li> <li>・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて</li> <li>・発達障害支援アドバイザーの活用について</li> </ul>
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の特別支援教育コーディネーターとの情報交換では、特別支援学校が日常的に行っている児童生徒への働きかけや接し方などについて、指導・支援のノウハウを高等学校と共有することで、授業のユニバーサルデザイン化につながる取組を進めることができた。</li> <li>・養成研修を受講した県立特別支援学校の発達障害支援アドバイザーは、当該地域（四日市市・津市・松阪市）以外全てを派遣範囲としていることから、その特別支援学校の教員が担うべき役割を整理した。</li> </ul>				

オ. 小中学校におけるVR機器を活用したソーシャルスキルトレーニングについて

<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導において、発達障害のある児童生徒にVR機器を用いた教育実践を行い、指導における成果や課題を検証</li> <li>・小学校で通級による指導を受けている児童（21名）、適応指導教室に通う児童生徒（9名）、高等学校で通級による指導を受けている生徒（9名）を対象（他の児童生徒とのコミュニケーションや対人関係に困難さがある児童生徒を選定）</li> </ul>				
回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害支援アドバイザー</li> <li>・特別支援学校コーディネーター</li> </ul>	5月23日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VR機器を活用した指導方法</li> <li>・VR機器の活用に係る留意点</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町教育委員会特別支援教育主管課指導主事</li> <li>・VR機器開発業者（11月14日のみ）</li> </ul>	8月29日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の進捗</li> </ul>
3		11月14日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組に係る成果と課題</li> <li>・次年度の取組</li> </ul>
<p>○主な成果</p> <p>&lt;小学校で通級による指導を受けている児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内言語はあるが文字での表出が困難な児童が、VR機器を活用することで映像を見て時系列に考えを整理することができるようになった。</li> </ul> <p>&lt;適応指導教室に通う児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身が、教育センターに来るとVR機器が使用できることを理解し、児童にとってVR機器の使用を楽しみに通室することができるようになってきた。</li> <li>・VR機器のコンテンツに選択肢があることで、他の選択肢を見て自分の考え方を整理し、相手の意見を受け入れることができるようになってきた。</li> </ul> <p>&lt;高等学校で通級による指導を受けている生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導に通う小中学校で不登校になっていた生徒は、小中学校時代に体験してこなかった友達との関わりについてVR機器で体験することができ、その体験した内容を同じ体験をした生徒同士で話し合うことができた。</li> <li>・VR機器を複数名で使用し、その後話し合うことで、自分の考え方を相手に伝える練習をすることができた。</li> </ul>				

(3) 現状に即した教員養成課程における教授法の検討

ア. 授業シラバス作成のためのワーキング

回	参加者	実施日	研修形態	内容
1	・三重大学教育学部教授 ・特別支援学校コーディネーター ・発達障害支援アドバイザー	10月8日	オンライン	・本事業における特別支援教育の概要 ・発達障害の概要 ・通常の学級における発達障害支援の現状
2	・三重大学教育学部の学生（1年） ・県教育委員会特別支援教育課指導主事	10月15日		・通級指導教室における発達障害支援での現状 ・特別支援学校における発達障害支援の現状
3	・三重大学教育学部教授 ・発達障害支援アドバイザー ・県教育委員会特別支援教育課指導主事	10月29日		・授業シラバス案について
4	・三重大学教育学部教授 ・特別支援学校コーディネーター ・三重大学教育学部の学生（4年） ・県教育委員会特別支援教育課指導主事	2月1日		・本事業における特別支援教育の概要 ・発達障害の概要
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害支援アドバイザーなど現職教員が、発達障害のある児童生徒が在籍する通常の学級での授業づくりや保護者との連携の重要性などを伝えることで、学生が将来教員となることへの具体的なイメージを持つことができ、発達障害支援への関心を高めることができた。</li> <li>・学生に対し、「発達障害の理解のためのリーフレット」を活用したことで、講座中に限らず講座間や講座後も発達障害支援を考える機会となった。</li> <li>・三重大学教育学部の教授らと3年間にわたり協議してきた内容について、以下のとおり大学と確認した。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【大学との確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にとって、小中学校や特別支援学校の現職教員による出前授業は、具体的な教育実践を学ぶために有効な方法であることから、講座「特別支援教育入門」などの一年次で履修する学修内容に入れることが望ましい。</li> <li>・現職教員による出前授業は、本県が示す教職着任時に求められる教員としての資質向上に関する指標に合致した資質を概ね習得することができる。</li> </ul> </div>				

イ. 目的

国立大学法人三重大学と県教育委員会が協働し、令和元年度から大学の教員養成課程において必修となった「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（三重大学教育学部現行講座「特別支援教育入門」（一年次）および「教職実践演習」（四年次））の教育内容（特に発達障害支援）について、地域や学校現場のニーズに対応した授業シラバス案について検討する。

ウ. 今年度の成果

- ・現行講座「特別支援教育入門」および「教職実践演習」において学生に対し、アンケートを実施した結果、発達障害支援の理解を図ることができた。

【参考】講座「特別支援教育入門」アンケート結果について（講座受講前後に実施）



問	質問項目	選択項目	受講前 (%) 回答数：208名	受講後 (%) 回答数：195名
1	自分自身が「発達障害」について他者に説明できますか。	できる	4.3	20
		ややできる	36.1	71.3
		あまりできない	51.9	8.7
		全くできない	7.7	0
2	発達障害のある子供の学習面や生活面のつまずき(困難)や苦手さを知っていますか。	知っている	22.1	52.3
		やや知っている	46.2	43.1
		余り知らない	27.4	3.8
		全く知らない	4.3	0.8
3	自分自身が発達障害のある子供への指導・支援について他者に説明できますか。	できる	2.9	26.2
		ややできる	16.8	59
		余りできない	61.1	14.4
		全くできない	19.2	0.4
4	発達障害のある子供がどのような学級・学校に在籍しているのか知っていますか。	知っている	26.4	65.6
		やや知っている	54.8	32.3
		余り知らない	15.9	2.1
		全く知らない	1.9	0
5	発達障害のある子供に学習面や生活面で何を指導・支援すればよいのか理解していますか。	理解している	2.9	29.2
		やや理解している	26.9	62.6
		あまり理解していない	59.1	7.7
		まったく理解していない	11.1	0
6	教育ボランティアなどに参加してみたいと思いますか。	思う	39.4	48.7
		やや思う	39.9	35.9
		余り思わない	18.3	14.9
		全く思わない	2.4	0
7	教育ボランティアなどで発達障害のある子供たちの指導・支援をやってみたい。あるいは、発達障害のある子供たちとの関わりをもちたいと思いますか。	思う	27.9	42.1
		やや思う	45.7	45.1
		余り思わない	24.5	12.8
		全く思わない	1.9	0
8	発達障害の有無にかかわらず、子供たちが共に学ぶことの大切さを理解していますか。	理解している	55.8	77.4
		やや理解している	38.9	21.5
		あまり理解していない	4.5	1.1
		まったく理解していない	0.8	0

【参考】講座「教職実践演習」アンケート結果について（講座受講前後に実施）

問	質問項目	選択項目	受講前 (%) 回答数：177名	受講後 (%) 回答数：174名
1	自分自身が「発達障害」について他者に説明できますか。	できる	10.2	47.7
		ややできる	63.8	49.4
		あまりできない	23.7	2.9
		全くできない	2.3	0
2	発達障害のある子供の学習面や生活面のつまずき(困難)や苦手さを知っていますか。	知っている	25.4	64.9
		やや知っている	65	34.5
		余り知らない	8.5	0.6
		全く知らない	1.1	0

3	自分自身が発達障害のある子供への指導・支援について他者に説明できますか。	できる	5	42.5
		ややできる	59.9	54
		余りできない	30.5	3
		全くできない	4.6	0.5
4	発達障害のある子供がどのような学級・学校に在籍してるのか知っていますか。	知っている	32.8	79.3
		やや知っている	52	20.1
		余り知らない	13	0.6
		全く知らない	2.2	0
5	発達障害のある子供に学習面や生活面で何を指導・支援すればよいのか理解していますか。	理解している	9	47.1
		やや理解している	59.9	48.9
		あまり理解していない	28.8	4
		まったく理解していない	2.3	0
6	発達障害の有無にかかわらず、子供たちが共に学ぶことの大切さを理解していますか。	理解している	66.1	81.6
		やや理解している	31.1	16.7
		あまり理解していない	2	1.7
		まったく理解していない	0.8	0

## 5. 今後の課題と対応

県内において発達障害支援がどの学校、地域においても変わりなく、継続的に実施できるように、発達障害支援アドバイザーを中心とした小中高等学校および特別支援学校のネットワークをさらに強化するとともに、経験の浅い教員の専門性の向上や指導的立場の教員等の育成を目指した研修を引き続き行う必要があることから、令和5年度は、以下のとおり取り組む。

### (1) 教員の専門性向上のための研修等の機会の充実

- ・発達障害支援について経験の浅い教員が通級による指導を担当している現状があることから、引き続き人材を育成し、教員の専門性を向上するため、指標に対応した研修を実施する。

### (2) 経験の浅い教員への指導・助言などのサポート体制の構築

- ・四日市市、津市、松阪市以外の地域における発達障害支援に係る支援体制の強化を図るために、引き続き、発達障害支援アドバイザーの養成を行って、活用に繋げる。

### (3) 大学との連携

- ・教員養成課程で学ぶ学生への発達障害支援の理解を促進するため、大学と継続した連携を行う。

## 6. 問合せ先

組織名：三重県教育委員会

担当部署：三重県教育委員会事務局特別支援教育課